

◀ 50kgのバーベルを楽々と

子ども達へ

子どものころからの大好きを生業なりわいに変え、満足することなく日々追求を続ける木下さん。次の世代の子ども達にもその魅力を伝えたい。

「ものづくりのイベントに出展する事もあるので、子ども達の『やってみたい』や『出来た!』の心を育ててあげたい」

誰にも負けへん

私たちの暮らしを支えるたくさんの「もの」。それを生み出す過程で、たくさんの人の情熱とこだわりが注がれる。

「実は会社では若いほうなんです。でも、他の誰にも負けてへんて思いながら毎日働いてます」

今日も一日厳しく優しい瞳で、一つひとつの作品を見つめ、魂を吹き込む。そして、午後4時45分の終業ベルとともに、パパの目に戻り、その奥に少年の瞳が輝きだす。



▲仲間と談笑する木下さん。工場中央に図面を広げるスペースがある



▲溶接作業中「他の工場の技術者の溶接を手本に皆で練習したりしますよ」



▲工場内には作品を作り出すための精密機器がズラリ

趣味≒仕事

しかし、話を聞くとドンドン出てくる。趣味のものづくりの話が。

「昔からバイクが好きなんです。いつかはバイクを作りたい。エンジンはハーレー製でフレームの部分を自分で作りたい」

大切にしている心

趣味と実益を兼ねる木下さんのものづくり。大切にしている心がある。それは、街中にある「もの」に興味を持ち、人の「作品」を素敵だなと感じること。そして、それらを自分でも作ってみたいと思う心。

「出来るかどうかなんてやってみないと分からない。こうやってダメだったら、ああやってみようとか。仕事でも同じ。難解な依頼が来たときは、みんなで集まりアイデアを出し合います」

もちろん失敗もある。

「納期が迫り、焦って作ったら穴の位置が違う。サイズが2倍になっていたことも。最近は落ち着いてきたのか、ほとんどありませんけどね(笑)」



▲電子制御の板金マシーンを自在に操る

淀川区の「ものづくり力」はスゴいんです!!

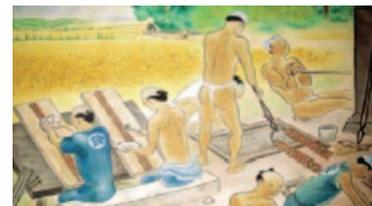
今回取材させていただいたエイトテックさんははじめ、淀川区には製造業に関する事業所が**426社**もあります。また従業員数は、全24区中第3位の**11,912人**。多くの方が淀川の地で製造業に従事されているんですね。

江戸時代中ごろ、現在の加島4丁目神崎川沿いには、貨幣の鋳造所がありました。そこは「加島銭座」と呼ばれ、良質の寛永通貨が鋳造されていました。当時の加島は「かじや千軒、全村鍛冶戸」と言われるほど工業が盛んな土地柄でした。

そんな加島の地の歴史をはじめ、ものづくりの伝統が現代まで継承され、淀川区の製造品出荷額等の総額は、なんと**全24区中第1位!** スゴイ!! ご存知でしたか!?

※平成24年工業統計調査による(平成24年12月31日現在)

資料協力: 一般社団法人 淀川工業会 <http://yodogawa-kogyokai.com/>



▲銭座で働く人々のようす



木下さん

木村社長

エイトテックさんも参加する

よどがわフェスティバル2014は次のページへ!!